

Development of New Oncolytic Virotherapy Targeting Breast Cancer Using Coxsackievirus B3

相良, 京

<https://hdl.handle.net/2324/4475031>

出版情報 : Kyushu University, 2020, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



(別紙様式2)

氏名	相良 京
論文名	Development of New Oncolytic Virotherapy Targeting Breast Cancer Using Coxsackievirus B3
論文調査委員	主査 九州大学 教授 小田 義直 副査 九州大学 教授 馬場 英司 副査 九州大学 教授 柳 雄介

論文審査の結果の要旨

乳癌は女性の悪性新生物罹患数において第一位であり、本邦では罹患率、死亡率ともに一貫して増加傾向にあり、特にトリプルネガティブ乳がん (TNBC) は治療抵抗性で新規治療法開発が望まれている。腫瘍溶解性ウイルス療法はその1つであり、申請者らは安全性向上の為に遺伝子改変型コクサッキーウイルスB群3型 (CVB3) を作製し、副作用の消失について確認するとともに、CVB3感染による乳がん細胞への殺細胞効果について検討した。その結果、遺伝子改変型CVB3剤のTNBC細胞株に対する顕著な腫瘍溶解性を認めた。TNBC細胞株ではコクサッキー・アデノウイルス受容体 (CAR) および崩壊促進因子 (DAF) の高発現を認めた。さらに担癌ヌードマウスにおいて心筋炎や膝障害などの副作用が軽減され比較的高い安全性が確認できた。以上の結果より特にトリプルネガティブ乳がんに対する新規治療法として本療法が有望である可能性が示唆された。

以上の結果はこの方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、治療成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々の質問を行ったがいずれについても適切な回答を得た。

よって調査委員会合議の結果、試験は合格と決定した。